

解剖学 [系統解剖学]

担当講座（分野）：解剖学講座（機能形態学分野）

第2学年 前期・後期

	講義	実習
前期	48 時間	21 時間
後期	27 時間	114 時間

教育成果（アウトカム）

人体を構成する、諸器官の形態的特徴と空間的結合・配列について、その機能との関連を考えながら学ぶことにより、形態の普遍性と変異を三次元的に理解できるようになる。また、器官が持つ形態の意義とその構造が存在する理由を個体発生的・系統発生的に理解できるようになる。さらに、歯科医師として歯科疾患に対する適切な検査・治療を行うために臨床に必須な三次元的局所解剖学的知識に基づいて、頭頸部領域の構造を説明できるようになる。（ディプロマポリシー：5、8）

事前学修内容及び事前学修時間（30分）

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、各欄に示す教科書の該当領域を読み、要点をまとめる事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

講義日程

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
4月2日(火) 1限	藤原尚樹准教授	解剖学概論 解剖学用語 医学の中における解剖学の足跡と身体の方向用語、解剖学名を理解する。	1. 身体を構築する各器官系について説明できる。 2. 人体の基準単位を説明できる。 3. 変異と異常の相違を説明できる。 4. 身体の方向用語を説明できる。 5. 身体の解剖学名を説明できる。 [C-3-1)-(①] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P1～P4
4月5日(金) 1限	藤原尚樹准教授	骨学概論 骨の肉眼的構造と関節を理解する。	1. 骨の2つの形成様式の相違を説明できる。 2. 骨の肉眼的構造を説明できる。 3. 関節の構造と運動を関連して説明できる。 4. 骨年齢を説明できる。 [C-3-4)-(2)-(①] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P5～P7, P31～36
4月5日(金) 2限	藤原尚樹准教授	骨学：椎骨・肋骨 椎骨の基本的な形態と脊柱としての機能を理解する。	1. 椎骨の基本構造が説明できる。 2. 各椎骨の特徴を説明できる。 3. 椎骨の彎曲と体重支持の関連性について説明できる。 4. 肋骨の連結と胸郭の構造を説明できる。 [C-3-4)-(2)-(①] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P7～P11

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
4月9日(火) 1限	藤原尚樹准教授	骨学：上肢骨 四肢骨の基本としての上肢骨の構成を理解する。荷重を支える構造を理解する。	1. 上肢帯を構成している骨を列挙できる。 2. 肩甲骨の形態と他の骨との関節を説明できる。 3. 鎖骨の形態と他の骨との関節を説明できる。 4. 上腕骨の形態と特徴を説明できる。 5. 肘関節の構造を説明できる。 6. 橈骨と尺骨の形態と、それらの違いを説明できる。 7. 手根骨とその化骨年齢を説明できる。 8. 中手骨と指骨との違いを説明できる。 [C-3-4)-(2)-①] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P11～P14
4月9日(火) 3限	藤原尚樹准教授	骨学：下肢骨・骨盤 上肢骨を基に我々が直立二足歩行を行うことにより下肢がどの様に変化したかを理解する。	1. 下肢骨の基本構造を説明できる。 2. 寛骨の構造を説明できる。 3. 大腿骨の特徴を説明できる。 4. 下腿骨の特徴を説明できる。 5. 足骨の特徴を説明できる。 6. 脊椎との連結と骨盤の構造を説明できる。 7. 股関節の特徴を説明できる。 8. 膝関節と体重支持の関連性を説明できる。 [C-3-4)-(2)-①] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P14～P17
4月12日(金) 1限	藤原尚樹准教授	骨学：頭蓋冠 頭蓋骨を構成する骨を理解し、それぞれの縫合と形成を理解する。	1. 頭蓋骨の基本的配列を説明できる。 2. 頭蓋骨相互の関節（縫合）を説明できる。 3. 縫合の加齢変化を説明できる。 [E-2-1)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P94～P101
4月12日(金) 2限	藤原尚樹准教授	骨学：内・外頭蓋底 頭蓋骨を構成する骨を理解し、それぞれの縫合と形成を理解する。 エックス線写真の読影にかかわる骨学を理解する。	1. 脳頭蓋を説明できる。 2. 内頭蓋底の神経、血管の通路を説明できる。 3. 外頭蓋底の特徴を説明できる。 4. 外・内頭蓋底の関連性を説明できる。 5. 頭蓋底を区分して説明できる。 6. 頭蓋骨の基準平面を説明できる。 7. 頭蓋骨計測点を説明できる。 [E-2-1)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P102～P107

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
4月19日(金) 1限	藤原尚樹准教授	骨学：頭蓋前面 眼窩・鼻腔 分離骨、連骨を用いて顔面骨・眼窩の構築を理解する。	1. 眼窩と交通する経路および通過する構造物を説明できる。 2. 頭蓋腔と交通する経路および通過する構造物を説明できる。 3. 鼻中隔を構成する骨を説明できる。 4. 鼻腔を構築する骨の位置関係を説明できる。 5. 鼻甲介と鼻道に関連的に説明できる。 6. 副鼻腔について説明できる。 7. 副鼻腔の鼻腔への開口部を説明できる。 [E-2-1)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P107～P111, 117～119
4月19日(金) 2限	藤原尚樹准教授	骨学：口蓋・翼口蓋窩 分離骨、連骨を用いて口蓋・翼口蓋窩の構築を理解する。	1. 翼口蓋窩と周囲腔の交通を説明できる。 2. 頭蓋腔と交通する経路および通過する構造物を説明できる。 3. 骨口蓋の構造と接続を説明できる。 [E-2-1)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P112～P114, 120
4月23日(火) 1限	藤原尚樹准教授	骨学：上顎骨 上顎骨の形態と上顎神経の経過を理解する。	1. 頭蓋骨における上顎骨の位置を説明できる。 2. 上顎骨と接合する骨を説明できる。 3. 口蓋の構成を説明できる。 4. 鼻腔の構成について説明ができる。 5. 上顎の歯の植立を説明できる。 6. 上顎洞について説明ができる。 7. 上顎歯に分布する神経の経路が説明できる。 [E-2-1)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P108～P112
4月26日(金) 1限	藤原尚樹准教授	骨学：下顎骨・舌骨 下顎骨の形態と筋肉の付着、下歯槽神経の分布を理解する。	1. 咀嚼筋の付着部位を説明できる。 2. 顎関節の構造を説明できる。 3. 舌骨上筋の付着部位を説明できる。 4. 下顎の歯の植立を説明できる。 5. オトガイの存在理由を説明できる。 6. 下顎の歯に分布する神経の経過を説明できる。 7. 頬棚について説明できる。 8. 臼後隆起と臼後三角の関連について説明できる。 [E-2-1)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P114～P117
5月7日(火) 1限	藤原尚樹准教授	骨学：側頭骨 側頭骨の基本的な形態と鼓室を理解する。	1. 側頭骨基本構造を説明できる。 2. 顔面神経管の特徴を説明できる。 3. 鼓室の特徴を説明できる。 4. 側頭骨の管、孔を通過する神経を説明できる。 [E-2-1)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P102～P104

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
5月10日(金) 1限	藤原尚樹准教授	骨学：蝶形骨 蝶形骨の形態と孔、裂を理解する。	1. 蝶形骨の基本構造が説明できる。 2. 側頭骨、蝶形骨の接続を説明できる。 3. 蝶形骨の管、孔を通過する神経を説明できる。 [E-2-1)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P104～P106
5月14日(火) 1限	藤原尚樹准教授	骨学：骨学のまとめ 到達度試験	1. 全身の骨を列挙できる。 2. 各骨の連結、関節を説明できる。 3. 頭蓋骨の連結を説明できる。 4. 孔、裂等の通過構造物を説明できる。 [C-3-4)-(2)-①, E-2-1)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P5～17, 94～P120
5月17日(金) 1限	藤原尚樹准教授	筋学概論 筋学：体幹 運動器としての筋肉の特性、推進軸と筋肉の配列を理解する。 体幹の筋肉の特徴を理解する。	1. 骨格筋の基本配列を説明できる。 2. 背側筋群と腹側筋群の違いを説明できる。 3. 筋の起始と停止を説明できる。 4. 筋の作用について説明できる。 5. 筋の補助装置を説明できる。 6. 体幹の筋肉を区分できる。 7. 脊柱起立筋を説明できる。 8. 胸腔を囲む筋肉を説明できる。 9. 腹腔を囲む筋肉を説明できる。 [C-3-4)-(3)-①, C-3-4)-(3)-③] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P18～24
5月21日(火) 1限	藤原尚樹准教授	筋学：上・下肢の筋肉 上肢と下肢の筋肉の特徴を理解する。	1. 上肢帯の筋肉を説明できる。 2. 自由上肢の筋肉を説明できる。 3. 主動筋と拮抗筋の働きを説明できる。 4. 下肢帯の筋肉を説明できる。 5. 自由下肢の筋肉を説明できる。 6. 上肢と下肢の筋肉の違いを説明できる。 [C-3-4)-(3)-①, C-3-4)-(3)-③] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P24～30
5月24日(金) 1限	藤原尚樹准教授	筋学：表情筋 表情筋の構造と作用を理解する。	1. 表情筋の構造と作用を説明できる。 2. 口裂周囲筋の構造と作用を説明できる。 3. 頬筋の構造と作用を説明できる。 4. 表情筋の総合的な機能を説明できる。 5. 表情筋の神経支配を説明できる。 6. 表情筋の栄養血管を説明できる。 7. 口角結節の構造を説明できる。 [E-2-1)-③] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P121～124, 127

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
5月28日(火) 1限	藤原尚樹准教授	筋学：咀嚼筋 咀嚼筋の構造と作用を理解する。	1. 各咀嚼筋の構造と作用を説明できる。 2. 咀嚼筋の総合的な機能を説明できる。 3. 咀嚼筋の神経支配を説明できる。 4. 咀嚼筋の栄養血管を説明できる。 5. 咀嚼筋隙を区分して説明できる。 [E-2-1)-③] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P125～127
5月31日(金) 1限	藤原尚樹准教授	筋学：舌骨筋 舌骨上筋と舌骨下筋の構造と作用を理解する。	1. 舌骨上筋の構造と作用を説明できる。 2. 舌骨下筋の構造と作用を説明できる。 3. 舌骨筋の総合的な機能を説明できる。 4. 舌骨筋の神経支配を説明できる。 [E-2-1)-③] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P127～128
5月31日(金) 2限	藤原尚樹准教授	筋学：頸筋と頸筋膜 側頸筋と頸椎筋ならびに頸筋膜の拡がりを理解する。	1. 側頸筋の構造と作用を説明できる。 2. 頸椎筋の構造と作用を説明できる。 3. 頸筋の神経支配を説明できる。 4. 頸筋膜を区分して説明できる。 5. 頸部の筋隙を炎症の波及の観点から説明できる。 [E-2-1)-③] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P129, 224～231
6月4日(火) 1限	藤原尚樹准教授	筋学：顎関節（咀嚼様式・ヒトの顎関節の特徴） 顎関節の形態と進化を咀嚼様式から理解する。 ヒトの顎関節の形態を理解する。	1. 顎関節の特徴を説明できる。 2. 蝶番運動と関連する顎関節の形状を説明できる。 3. 臼磨運動と関連する顎関節の形状を説明できる。 4. 前後運動と関連する顎関節の形状を説明できる。 5. 複関節を説明できる。 6. 雑食性動物の顎関節を説明できる。 7. ヒトの顎関節の形態を説明できる。 8. 側方運動と顎関節の相関性を説明できる。 9. 顎関節を動かす筋肉を説明できる。 10. 顎関節の支配神経を説明できる。 [E-2-1)-⑥] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P130～132

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
6月7日(金) 1限	藤原尚樹准教授	体液の循環：循環系の概論 脈管学：心臓、胎生循環 脈管の分類、特徴、機能を理解する。 心臓の発生、形態、機能、神経支配を理解する。	1. 動・静脈、リンパ管の概念を説明できる。 2. 動・静脈、リンパ管の形態区別、機能の違いを説明できる。 3. 末梢部における物質透過の概念を説明できる。 4. 太さによる脈管の区分と、機能と関連付けができる。 5. 血管の発生過程における心臓の発生の特徴を説明できる。 6. 胎生循環と心臓の構造の関係を説明できる。 7. 心臓の形態学的特徴から、各部位の機能を説明できる。 8. 心臓の拍動の原理を神経支配の観点から説明できる。 9. 心臓の弁の存在する位置及び形態の違いを説明できる。 [C-3-4)-(4)-①, C-3-4)-(4)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P37～48, 52～53
6月11日(火) 1限	藤原尚樹准教授	筋学：筋学のまとめ 到達度試験	1. 全身の筋肉を列挙できる。 2. 筋肉の起始・停止と機能について説明できる。 3. 頭蓋骨の付着部を説明できる。 4. 表情筋の機能を説明できる。 5. 咀嚼筋の機能を説明できる。 6. 咀嚼運動を説明できる。 7. 嚥下運動を説明できる。 [C-3-4)-(3)-①, C-3-4)-(3)-③, E-2-1)-③, E-2-1)-⑥] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P121～132, 224～231
6月14日(金) 1限	藤原尚樹准教授	脈管学：大動脈 大動脈弓の枝、胸・腹部大動脈の枝および分布領域を理解する。	1. 大動脈弓の枝の特徴、左右の違いを説明できる。 2. 胸部大動脈の走行の特徴及び枝を説明できる。 3. 胸部大動脈と腹部大動脈の移行部について説明できる。 4. 腹部大動脈の走行及び枝を説明できる。 5. 腹部大動脈の枝の対性、不對性を説明できる。 6. 腹腔動脈の分布域を説明できる。 [C-3-4)-(4)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P49～51

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
6月18日(火) 1限	藤原尚樹准教授	脈管学：上下肢の動脈 上肢と下肢の動脈の相同性と分布の特徴を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 鎖骨下動脈の走行の特徴を腕神経叢との関係で説明できる。 鎖骨下動脈の分岐型を説明できる。 腋窩動脈の区分と小胸筋の関係を説明できる。 腋窩動脈の分布域を説明できる。 腋窩隙との関係を神経の走行と合わせて説明できる。 上腕、前腕、手に分布する動脈の走行と特徴を説明できる。 総腸骨動脈の分岐位置を骨学的に説明できる。 外腸骨動脈と大腿動脈の区分を説明できる。 内腸骨動脈の分布域とその特徴を説明できる。 殿部の栄養血管の走行と分布域を説明できる。 大腿、下腿、足に分布する動脈の走行と特徴を説明できる。 <p>[C-3-4)-(4)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P49, 51</p>
6月21日(金) 1限	藤原尚樹准教授	脈管学：頭頸部の動脈 内頸動脈 頭頸部の動脈の走行を理解する。 内頸動脈の走行を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 頭頸部に分布する動脈を説明できる。 大動脈弓から分岐する動脈の走行を説明できる。 脳の栄養血管、ウィリスの動脈輪を説明できる。 <p>[E-2-1)-④] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P133, 137</p>
6月25日(火) 1限	藤原尚樹准教授	脈管学：外頸動脈の枝（上甲状腺動脈、顔面動脈、舌動脈） 顔面動脈、舌動脈の分枝と範囲を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 上甲状腺動脈の分岐および走行経路を説明できる。 顔面動脈の分岐および走行経路を説明できる。 舌動脈の分岐および走行経路を説明できる。 その他の外頸動脈枝の分布および経路を説明できる。 <p>[E-2-1)-④] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P133～135</p>

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
6月28日(金) 1限	藤原尚樹准教授	脈管学：外頸動脈の終枝 (顎動脈、浅側頭動脈) 顎顔面に分布する動脈の 分枝と範囲を理解する。	1. 顎動脈の区分および分布領域を説明できる。 2. 顎動脈の特徴と人種差を説明できる。 3. 口蓋に分布する動脈の走行経路を説明できる。 4. 伝達麻酔時の注意すべき顎動脈の走行経路を説明できる。 5. 浅側頭動脈の分岐および走行経路を説明できる。 6. 浅側頭動脈の動脈内注入法における臨床的意義を説明できる。 [E-2-1)-(4)] 口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P135～137
7月1日(月) 1限	藤原尚樹准教授	脈管学：体液の回収経路 (静脈系) 動脈と静脈の形態的相違 点、動脈の走行との違いを 理解する。	1. 動脈と静脈の形態学的相違点を説明できる。 2. 動脈には認められない静脈の走行の特徴を説明できる。 3. 胎生循環における静脈の特徴を説明できる。 4. 側副循環路の皮膚直下、腹腔内における連絡を説明できる。 [E-2-1)-(4)] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P51～53
7月2日(火) 1限	藤原尚樹准教授	脈管学：頭頸部の静脈 頭頸部の回収経路として の静脈を理解する。	1. 内頸静脈の枝と回収域を説明できる。 2. 顎顔面の静脈の特徴を説明できる。 3. 翼突静脈叢について説明できる。 4. 頭蓋腔内と外との連絡を側副循環の観点で説明できる。 5. 海綿静脈洞の側副循環路としての意義を説明できる。 6. 静脈洞の特徴を説明できる。 [E-2-1)-(4)] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P138～139
7月3日(水) 3限	藤原尚樹准教授	脈管学：体液の回収経路 (リンパ系) 頭頸部のリンパ管 動・静脈との形態的相違点 を理解する。 機能としての免疫を理解 し、そのためのリンパ組 織、特に領域リンパ節、リ ンパ管構築を理解する。 頭頸部のリンパ管経路、領 域リンパ節を理解する。	1. 免疫の基本を説明できる。 2. リンパ球産生能を持つリンパ組織の位置、構造を説明できる。 3. 各臓器の所属リンパ節を説明できる。 4. リンパ管の機能としての吸収能を理解し、各臓器のリンパ管構築の特徴を説明できる。 5. 顎顔面の所属リンパ節を説明できる。 6. 口腔領域の所属リンパ節を説明できる。 7. ワルダイエルの咽頭輪を構成する扁桃、リンパ節を説明できる。 8. 頭頸部腫瘍におけるリンパ管の重要性を説明できる。 [C-3-4)-(4)-(5), E-2-1)-(4)] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P53～56, 139～144

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
7月3日(水) 4限	藤原尚樹准教授	骨学・筋学・脈管学のまとめ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各部位の骨と筋の関係性を説明できる。 2. 脈管の走行と骨・筋の関係（筋隙）を説明できる。 3. 頭蓋骨にある孔、裂等を通過する脈管について説明できる。 [C-3-4)-(2)-①, C-3-4)-(3)-①③, C-3-4)-(4)-②⑤, E-2-1)-②～④⑥] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P37～56, 133～144
9月11日(水) 1限	藤原尚樹准教授	神経学概論 中枢神経の構成と発生を理解する。 情報収集と伝達器官としての末梢神経の特性、脊髄神経と脳神経の相違を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経管の発生について説明できる。 2. 中枢神経の区分を説明できる。 3. 神経管と脳室について説明できる。 4. 末梢神経の基本を説明できる。 5. 末梢神経の相違を説明できる。 6. 末梢神経の分布を説明できる。 7. 脳神経と脊髄神経を区別できる。 [C-3-4)-(5)-①～③] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P57～60, 65～69, 145～154
9月13日(金) 2限	藤原尚樹准教授	中枢神経：脊髄、延髄・橋、小脳、中脳 脊髄、延髄、橋の構造を理解する。 小脳の構造と神経路を理解する。 中脳の構造と神経路を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳神経核の位置について説明できる。 2. 小脳の発生を説明できる。 3. 小脳の新、旧、原の区分を説明できる。 4. 小脳脚の構成と機能を説明できる。 5. 構成細胞の分布を説明できる。 6. 小脳核の位置について説明できる。 7. 小脳の伝導路を説明できる。 8. 脳幹の構成要素と機能について説明できる。 9. 中脳の発生と新旧の区分を説明できる。 10. 四丘体の構成と機能を説明できる。 [C-3-4)-(5)-④] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P61～62, 63～64
9月17日(火) 2限	藤原尚樹准教授	中枢神経：間脳、終脳 間脳の構造と神経路を理解する。 終脳の発生と進化を理解する。 終脳の構造と機能局在を理解する。 神経分泌を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚路を説明できる。 2. 聴覚路を説明できる。 3. 大脳脚を説明できる。 4. 大脳基底核の内容を説明できる。 5. 視床の位置と機能を説明できる。 6. 神経分泌について説明できる。 7. 終脳の発生を説明できる。 8. 終脳の新、旧の区分を説明できる。 9. 大脳回の構成と機能を説明できる。 10. 内包の位置と機能を説明できる。 11. 島の機能を説明できる。 12. 大脳皮質を説明できる。 13. 海馬の位置と機能を説明できる。 [C-3-4)-(5)-④] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P62～63

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月18日(水) 1限	藤原尚樹准教授	末梢神経：脊髄神経・頸神経叢・腕神経叢 脊髄神経の特徴と頸神経叢の構成と支配領域を理解する。 腕神経叢の構成と支配領域と機能を理解する。	1. 脊髄神経の構造と特徴が説明できる。 2. 知覚神経の特徴と分布域が説明できる。 3. 運動神経の特徴と分布域が説明できる。 4. 頸神経叢の構成が説明できる。 5. 頸部の皮膚知覚を説明できる。 6. 舌骨下筋・横隔膜の神経支配を説明できる。 7. 喉頭の筋肉の神経支配を説明できる。 8. 腕神経叢の構成と支配領域を説明できる。 9. 脊髄神経の基本構造を説明できる。 10. 神経幹の枝の構成と機能を説明できる。 11. 神経束の構成と機能を説明できる。 [C-3-4)-(5)-④] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P154～156
9月20日(金) 1限	藤原尚樹准教授	末梢神経：腰神経叢・仙骨神経叢 自律神経 腰・仙骨神経叢の構成と支配領域と機能を理解する。 自律神経の構成と機能を理解する。	1. 腰神経叢の構成と支配領域を説明できる。 2. 仙骨神経叢の構成と支配領域を説明できる。 3. 下肢の神経支配を説明できる。 4. 骨盤内臓の神経支配を説明できる。 5. 腕神経叢と仙骨神経叢の相違を説明できる。 6. 神経叢と反射について説明できる。 7. 植物性器官に分布する神経を説明できる。 8. 交感神経の基本構造を説明できる。 9. 副交感神経の基本構造を説明できる。 10. 自律神経節の構成と機能を説明できる。 11. 節前線維と節後線維の相違を説明できる。 12. 交感神経幹を説明できる。 13. 自律神経の伝達物質を説明できる。 [C-3-4)-(5)-④] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P156～159
9月25日(水) 1限	藤原尚樹准教授	神経学：末梢神経 (脳神経Ⅰ～Ⅳ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ) 脳神経Ⅰ～Ⅳ、Ⅵ、支配領域と機能を理解する。 顔面神経と内耳神経の走行と機能を理解する。	1. 脳神経の機能を説明できる。 2. 眼の筋肉の支配神経を説明できる。 3. 視覚伝達を説明できる。 4. 副交感神経の機能を説明できる。 5. 顔面神経の構成と作用を説明できる。 6. 顔面神経の経過を説明できる。 7. 第二鰓弓の発生と分布神経を説明できる。 8. 顔面神経の障害部位による機能障害を区分して説明できる。 9. 表情筋の神経支配を説明できる。 10. 聴覚と平衡感覚を説明できる。 [E-2-1)-⑤] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P159～160, 165～166

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月27日(金) 1限	藤原尚樹准教授	神経学：末梢神経 (脳神経Ⅶ、Ⅸ～Ⅻ) 脳神経Ⅶの支配領域と機能、走行を理解する。 舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経と頸神経叢の支配領域と機能を理解する。	1. 舌咽神経の構成と支配領域を説明できる。 2. 血圧と脈拍の調節を説明できる。 3. 副交感神経の機能を説明できる。 4. 耳下腺の神経支配を説明ができる。 5. 喉頭の筋肉の神経支配を説明できる。 6. 心臓、肺、消化器の神経支配を説明できる。 7. 舌筋の神経支配を説明できる。 8. 唾液腺の神経支配を区分して説明できる。 [E-2-1)-⑤] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P165～169
10月2日(水) 1限	藤原尚樹准教授	神経学：末梢神経 (脳神経 V1、V2) 眼神経、上顎神経の経過と支配領域を理解する。	1. 上顎神経の支配領域を説明できる。 2. 上顎神経の経過を説明できる。 3. 上顎神経の枝の構成と機能を説明できる。 4. 上顎神経の神経節と機能を説明ができる。 5. 口蓋の神経支配を説明できる。 6. 上顎歯の神経支配を説明できる。 7. 顔面皮膚の神経支配を説明できる。 8. 涙腺の神経支配を説明できる。 [E-2-1)-⑤] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P160～163
10月4日(金) 1限	藤原尚樹准教授	神経学：末梢神経 (脳神経 V3) 下顎神経の経過と支配領域を理解する。	1. 下顎神経の支配領域を説明できる。 2. 下顎神経の経過を説明できる。 3. 下顎神経の枝の構成と機能を説明できる。 4. 下顎神経の神経節と機能を説明ができる。 5. 舌の神経支配を説明できる。 6. 下顎歯の神経支配を説明できる。 7. 顔面皮膚の神経支配を説明できる。 8. 唾液腺の神経支配を説明できる。 9. 咀嚼筋の神経支配を説明できる。 10. 第一鰓弓筋の神経支配を説明できる。 [E-2-1)-⑤] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P163～165
10月11日 (金) 1限	藤原尚樹准教授	神経学：神経学のまとめ 到達度試験	1. 中枢神経の基本構造を説明できる。 2. 末梢神経としての脊髄神経叢の走行、分布を説明できる。 3. 自律神経の構成を説明できる。 4. I～XII脳神経の走行を説明できる。 5. 三叉神経、顔面神経、舌咽神経の分布領域を説明できる。 [C-3-4)-(5)-④, E-2-1)-⑤] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P57～69, 145～169

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
10月18日 (金) 1限	藤原尚樹准教授	口腔内臓Ⅰ：固有口腔・口腔前庭・舌背 口腔の範囲を理解する。 口腔を被っている粘膜の種類と機能を理解する。	1. 口唇の範囲を説明できる。 2. 口腔の区分（固有口腔と口腔前庭）を説明できる。 3. 口腔、鼻腔、咽頭のつながりを説明できる。 4. 口腔の由来を説明できる。 5. 粘膜の分類を説明できる。 6. 歯肉粘膜の区分とその機能を説明できる。 7. 舌乳頭をその機能から説明できる。 8. 味蕾の存在する舌乳頭を説明できる。 9. 粘膜を有する口腔臓器を示すことができる。 [E-2-2)-①, E-2-2)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P170～172, 175～177
10月25日 (金) 1限	藤原尚樹准教授	口腔内臓Ⅱ：歯肉、硬口蓋、軟口蓋 口腔の範囲を理解する。 歯肉の構造、歯周組織と歯の結合を理解する。 口蓋を構成する骨、筋肉を理解する。	1. 歯肉の区分を説明できる。 2. 歯周疾患罹患時の歯周組織の変化を説明できる。 3. 歯の萌出から、歯と歯肉上皮の結合を形態的に説明できる。 4. 歯肉、歯周組織の老化における変化を説明できる。 5. 硬口蓋を構成する骨を説明できる。 6. 軟口蓋を構成する筋肉の構成と支配神経を説明できる。 7. 軟口蓋の筋肉と咽頭、喉頭の筋肉との関係を説明できる。 8. 口蓋の構造と総義歯作成に関する注意点を説明できる。 [E-2-2)-①, E-2-2)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P172～175
11月1日(金) 1限	藤原尚樹准教授	口腔内臓：舌、咽頭 舌を構成する筋肉、運動・知覚神経支配、味覚神経を理解する。 咽頭を構成する筋肉を理解する。	1. 内舌筋、外舌筋の起始、停止、機能を説明できる。 2. 舌下神経の走行経路と分布域を説明できる。 3. 知覚神経の種類と支配領域を説明できる。 4. 味覚を支配する神経の走行経路を説明できる。 5. 味覚障害と他の疾患との組み合わせにより、障害部位を特定できる。 6. 咽頭を構成する筋肉を説明できる。 7. 口輪筋との関係を説明できる。 8. 嚥下の機構を説明できる。 [E-2-2)-③] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P177～178, 184～188

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
11月15日 (金) 1限	藤原尚樹准教授	口腔内臓：唾液腺 唾液腺の種類と支配神経を理解する。	1. 唾液腺の構造および分類を説明できる。 2. 唾液腺の神経支配を、神経の走行と障害を関連づけて説明できる。 [E-2-2)-(6)] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P178～184
11月22日 (金) 1限	藤原尚樹准教授	内臓学：消化器 消化器系を理解する。	1. 消化管の基本構造を説明できる。 2. 消化管各部位の構造と機能について説明できる。 3. 肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能について説明できる。 4. 腹膜と腹膜後器官について説明できる。 [C-3-4)-(7)] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P79～88
11月29日 (金) 1限	藤原尚樹准教授	咀嚼・嚥下 咀嚼・嚥下に関わる筋学を理解する。	1. 嚥下のステージと関与する舌骨上筋群の関連を説明できる。 [E-2-1)-(8)] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P208～211
12月6日(金) 1限	藤原尚樹准教授	内臓学：呼吸器、泌尿器、生殖器 呼吸器系を理解する。 泌尿生殖器系を理解する。	1. 鼻腔、咽頭、喉頭の構造を説明できる。 2. 気管、気管支、肺の構造を説明できる。 3. 呼吸の様式について説明できる。 4. 腎臓、尿管、膀胱の基本構造について説明できる。 5. 男性生殖器の構造を説明できる。 6. 女性生殖器の構造を説明できる。 [C-3-4)-(8)] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P188～195
12月13日 (金) 1限	藤原尚樹准教授	内臓学：感覚器、内分泌器 感覚器、内分泌器系を理解する。	1. 皮膚の構造と機能について説明できる。 2. 視覚、聴覚、平衡覚に関する感覚器の構造について説明できる。 3. 内分泌器官の種類と構造について説明できる。 4. 内分泌器官から分泌されるホルモンの種類と働きについて説明できる。 [C-3-4)-(6)] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P196～201

彫刻実習日程

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
5月17日(金) 3、4限	藤原尚樹准教授	<p>【彫刻の方法】 石膏彫刻をすることにより、歯の形態を立体的に理解し、特に臨床では見えない歯冠と歯根の位置関係を想像できるようになる。</p> <p>【上顎中切歯】 上顎中切歯の形態を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 石膏操作が行える。 2. 歯の方向を示す用語が説明できる。 3. 歯の構造を示す用語が説明できる。歯のスケッチが行える。 4. 上顎中切歯の形態が説明できる。 5. 切歯の左右側識別点を説明できる。 6. 上顎中切歯を立体的に把握できる。 7. 情報伝達の手段として上顎中切歯の形態が描ける。 <p>[E-3-1)-②] 事前学習：歯の解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P200～218</p>
5月24日(金) 3、4限	藤原尚樹准教授	<p>【上顎中切歯】 上顎中切歯の形態を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上顎中切歯の形態が説明できる。 2. 切歯の左右側識別点を説明できる。 3. 上顎中切歯を立体的に把握できる。 4. 情報伝達の手段として上顎中切歯の形態が描ける。 <p>[E-3-1)-②] 事前学習：歯の解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P37～56</p>
5月31日(金) 3、4限	藤原尚樹准教授	<p>【上顎第一小臼歯】 上顎第一小臼歯の形態を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上顎第一小臼歯の形態が説明できる。 2. 上顎第一小臼歯の左右側の鑑別点を説明できる。 3. 上顎第一小臼歯を立体的に把握できる。 4. 情報伝達の手段として上顎第一小臼歯の形態が描ける。 <p>[E-3-1)-②] 事前学習：歯の解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P57～66</p>
6月7日(金) 3、4限	藤原尚樹准教授	<p>【上顎第一大臼歯】 上顎第一大臼歯の形態を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上顎第一大臼歯の形態が説明できる。 2. 上顎第一大臼歯の左右側識別点を説明できる。 3. 上顎第一大臼歯を立体的に把握できる。 4. 情報伝達の手段として上顎第一大臼歯の形態が描ける。 <p>[E-3-1)-②] 事前学習：歯の解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P66～76</p>
6月14日(金) 3、4限	藤原尚樹准教授	<p>【下顎第一大臼歯】 下顎第一大臼歯の形態を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下顎第一大臼歯の形態が説明できる。 2. 下顎第一大臼歯の左右側を説明できる。 3. 下顎第一大臼歯を立体的に把握できる。 4. 情報伝達の手段として下顎第一大臼歯の形態が描ける。 <p>[E-3-1)-②] 事前学習：歯の解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P76～83</p>

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
6月21日(金) 3、4限	藤原尚樹准教授	【上顎乳中切歯】 上顎乳中切歯の形態を理解する。	1. 上顎乳中切歯の形態が説明できる。 2. 乳切歯の左右側識別点を説明できる。 3. 上顎乳中切歯を立体的に把握できる。 4. 情報伝達の手段として上顎乳中切歯の形態が描ける。 [E-3-1)-②] 事前学習：歯の解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P85～104
6月28日(金) 3、4限	藤原尚樹准教授	【下顎第一乳臼歯】 下顎第一乳臼歯の形態を理解する。	1. 下顎第一乳臼歯の形態が説明できる。 2. 下顎第一乳臼歯の左右側を説明できる。 3. 下顎第一乳臼歯を立体的に把握できる。 4. 情報伝達の手段として下顎第一乳臼歯の形態が描ける。 [E-3-1)-②] 事前学習：歯の解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P104～124

臨床解剖実習日程

※臨床解剖実習は解剖学的知識を統合して実施する。実習全体を通して該当するコア・カリキュラムは下記のとおりである。

[C-3-1)-①, C-3-4)-(2)-①, C-3-4)-(3)-①③, C-3-4)-(4)-②⑤, C-3-4)-(5)-①～④, C-3-4)-(7), C-3-4)-(8), C-3-4)-(10)-①, C-3-4)-(11)-①, E-2-1), E-2-2)]

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月10日(火) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	オリエンテーション 背臥位での体表観察と皮静脈皮神経の観察 S1 くび・胸・腹部の体表観察と皮切 S2 広頸筋と乳腺 S3 胸腹部の皮静脈と皮神経 (以下、同様に、内容に関しては「寺田・藤田の解剖実習の手引き」の該当セクションを示す)	1. 背臥位で体表に観察できる構造が説明できる。 2. 手術痕などを見きわめることができる。 3. 頸部から腹部までの皮下浅層の構造を説明できる。 4. 皮静脈・皮神経の走行に注意しながら剖出ができる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P4～12
9月11日(水) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	背臥位での浅層の筋の観察 S4 大胸筋と外腹斜筋 S5 頸神経叢の枝と胸鎖乳突筋	1. 大胸筋・外腹斜筋の走行と機能が説明できる。 2. 頸神経叢を構成する神経とそれらの分布を説明できる。 3. 胸鎖乳突筋の走行と支配神経を説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P12～19

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月13日(金) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	腹臥位での体表観察と浅層の筋の観察 §6 背なかの皮切り §7 背なかの浅筋	1. 腹臥位で体表に観察できる構造が説明できる。 2. 手術痕などを見きわめることができる。 3. 後頭部から臀部までの皮膚の厚みを頸部から腹部の皮膚と比較し、異同を説明できる。 4. 皮静脈・皮神経の走行に注意しながら剖出ができる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P20～25
9月17日(火) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	頸部深層の筋・脈管の観察 §8 くびのやや深層 §9 胸部の深層と腋窩 §10 鎖骨下動静脈とその枝 [D]§73 顔の浅層(～11/13)	1. 広頸筋の広がりを確認し、筋膜隙の概念との関係性を説明できる。 2. 浅頸神経ワナを構成する神経とその分布範囲を説明できる。 3. 胸部を構成する筋肉についてその動きと起始・停止の関係、支配神経を説明できる。 4. 鎖骨下動静脈とその枝を剖出し、その走行について説明できる。 5. 皮筋とは何かを説明できる。 6. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P25～36, 278～283
9月18日(水) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	上腕の筋・脈管・神経の観察 §11 うでの皮切りと腕神経叢 §12 上腕屈側の筋と神経	1. 皮静脈の走行を説明できる。 2. 肘正中皮静脈とその周囲の構造について説明できる。 3. 腕神経叢からの枝とその走行を説明できる。 4. 上肢に見られる主な屈筋と支配神経を説明できる。 5. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P37～44, 278～283
9月20日(金) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	上肢伸筋、腕神経叢と上肢の神経の観察 §13 肩甲骨の前面の筋 §14 上腕伸側と肩甲骨背面の筋 §15 上肢の切り離し	1. 皮静脈の走行を説明できる。 2. 肩甲骨に付く筋とその走行について説明できる。 3. 腕神経叢からの枝とその走行を説明できる。 4. 上肢に見られる主な伸筋と支配神経を説明できる。 5. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P45～51, 278～283

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月24日(火) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	前腕屈筋、指の屈筋の走行と腱鞘の観察 §16 前腕屈側の浅い層 §18 手のひらの皮切りと手掌腱膜 §19 手のひらの浅い層	1. 前腕屈筋の浅層とそれらの間を通過する脈管神経を説明できる。 2. 手掌の構造と指の屈筋の腱の走行について説明できる。 3. 手掌腱膜について説明できる。 4. 屈筋腱の腱鞘について説明できる。 5. 表情筋の走行を理解し、剖出できる 6. 屈筋支帯について概説できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P52～55, 62～68, 278～283
9月25日(水) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	前腕伸筋、指の伸筋の走行と腱鞘、血管・神経の走行の観察 §17 前腕の伸側と手背 §20 手の深い層	1. 前腕伸筋～手背の筋、腱、脈管について説明できる。 2. 伸筋腱の腱鞘について説明できる。 3. 伸筋支帯について概説できる。 4. 指を動かす腱の走行と停止部の構造について説明できる。 5. 指に分布する血管と神経の走行と、腱の走行について概説できる。 6. 浅・深掌動脈弓について説明できる。 7. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P56～61, 69～71, 278～283
9月27日(金) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	上肢の筋、神経・脈管の走行、関節の構造の観察 §21 上肢の血管と神経のまとめ §22 肩の関節とその周辺 §23 ひじの関節 §24 手くびの関節 §25 手と指の関節	1. 上肢全体の神経・脈管の走行と筋肉との関係について説明できる。 2. 肩関節の構造について概要を説明できる。 3. 肘関節の構造と動きとの関連を説明できる。 4. 手首（関節円板の有無）、手と指の関節、について説明できる。 5. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P71～81, 278～283
10月1日(火) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	下肢浅層の筋、皮静脈の走行、大腿三角の観察 §53 下肢の皮静脈と皮神経 §55 大腿前面の深層	1. 下肢の皮静脈の走行を概説できる。 2. 大伏在静脈と静脈瘤の関係について説明できる。 3. 大腿を構成する筋肉を説明できる。 4. 筋裂孔と血管裂孔、内転筋管を概説できる。 5. 大腿三角について説明できる 6. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P191～196, 198～204, 278～283

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
10月2日(水) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	臀部の筋、内転筋群と坐骨神経の観察 §54 大腿筋膜と大殿筋 §56 殿部の深層 §57 大腿後面の深層	1. 大腿筋膜、伏在裂孔を概説できる。 2. 大殿筋、大腿筋膜張筋の走行や機能を説明できる。 3. 臀部を構成する筋肉を説明できる。 4. 坐骨神経と筋肉の位置的關係を概説できる。 5. 大腿後面の筋と膝窩の關係について説明できる。 6. 内転筋群について概説できる。 7. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P197～198, 204～210, 278～283
10月4日(金) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	膝窩、下腿と足を構成する筋肉と脈管・神経の走行の観察 §58 膝窩と下腿後面 §59 下腿の前面と足背 §60 足底 大腿切断	1. 膝窩の構成要素について概説できる。 2. 下腿三頭筋・足底筋とアキレス腱について説明できる。 3. 下腿前面の構造について説明できる。 4. 足背・足底を構成する筋(腱)足底腱膜と脈管神経の走行との關係について概説できる。 5. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P210～220, 278～283
10月8日(火) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	下腿の最深層・膝関節、足の関節の観察 §61 下腿の最深層 §62 膝の関節 §63 足の関節	1. 下腿の脈管・神経の走行について概説できる。 2. 膝・足の関節について、靭帯と動きの關係について概説できる。 3. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P220～227, 278～283
10月9日(水) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	肋間筋、側腹筋、鼠径管の観察 §29 胸壁 §30 鼠径部と側腹筋群	1. 肋間筋の走行と肋間動静脈、肋間神経の位置的關係について概説できる。 2. 側腹筋の走行と鼠径靭帯について概説できる。 3. 鼠径管について概説できる。 4. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P93～100, 278～283

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
10月11日 (金) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	腹直筋と腹直筋鞘の観察 自然位での腹部内臓の観察 §31 腹直筋鞘 §32 横筋筋膜と腹膜 §33 臍 §34 腹部内臓の自然位での観察	1. 腹直筋、腹直筋鞘、横筋筋膜と腹膜との関係について概説できる。 2. 外側際ヒダ、内側臍ひだ、正中臍ひだを発生学的に説明できる。 3. 腹部内臓の自然位での配置を概説できる。 4. 手術痕から自然位とは異なる内臓の配置がないかを理解できる。 5. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。 P100～109, 278～283
10月15日 (火) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	胸部内臓の観察 §35 胸腔を開く §36 胸膜と心膜 §37 肺	1. 肋間筋の走行について概説できる。 2. 胸膜・心膜の立体的配置を説明できる。 3. 胸腺、心臓、肺の配置と構造を概説できる。 4. 肺門に出入りする管、肺葉と気管支の関係を概説できる。 5. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。 P110～122, 278～283
10月16日 (水) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	くびの根本～胸部内臓、神経・脈管の観察 心膜と心臓外形の観察 §38 くびの根もとの深層 §39 縦隔 §40 心臓の外景	1. 横隔神経、迷走神経の走行について概説できる。 2. 鎖骨下動静脈の走行と、その枝について概説できる。 3. 甲状腺・上皮小体の構造とそれらに向かう動静脈の走行を説明できる。 4. 縦隔にみられる臓器、脈管神経を概説できる。 5. 心膜の構造、心臓の外形について説明できる。 6. 冠状動静脈の走行について説明できる。 7. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P122～131, 278～283
10月18日 (金) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	心臓内部の観察 縦隔深部の観察 §41 心臓の内景 §42 縦隔の深部	1. 心臓内景の構造、弁、乳頭筋、卵円窩について概説できる。 2. 弁の構造について発生学的に概説できる。 3. 心臓での血液の流れについて説明できる。 4. 縦隔深部の構造、脈管神経・胸管などの走行を概説できる。 5. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P131～142, 278～283

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
10月23日 (水) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	腹膜後器官と腸間膜を持つ臓器の観察 腹部内臓に分布する脈管・神経の観察 §43 腹部内臓の位置 §44 腹膜と腹膜腔 §45 腹部内臓に分布する血管と神経	1. 腹部内臓の位置、腹膜後器官について概説できる。 2. 腸間膜と臓器の係に概説できる。 3. 腹部内臓に分布する脈管・神経を同定し、その走行を概説できる。 4. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P143～157, 278～283
10月25日 (金) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	胃・小腸・大腸・肝臓の観察 §46 空腸と回腸と結腸 §47 胃 §48 肝臓	1. 小腸と大腸の構造的異同について概説できる。 2. 幽門、十二指腸、空腸、回腸の構造について概説できる。 3. 胃の外景、内景、胃に出入りする血管について概説できる。 4. 肝臓の構造、肝門、胆嚢、胆管の立体的配置について概説できる。 5. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P157～169, 278～283
10月29日 (火) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	十二指腸と肝臓・膵臓との関係の観察 大動脈・下大静脈など血管系の観察 横隔膜の観察 腰神経叢の観察 §49 十二指腸・膵臓・脾臓 §50 腎臓と副腎 §51 後胸壁と後腹壁 §52 横隔膜と腰神経叢	1. 十二指腸、膵臓、脾臓の立体的配置について概説できる。 2. 大十二指腸乳頭とは何かについて概説できる。 3. 腎臓・副腎の位置的関係、構造的特徴について概説できる。 4. 胸大動脈、腹大動脈、下大静脈、奇静脈(半奇静脈)・胸管について臓器との関係性を説明できる。 5. 横隔膜とこれを貫くものと横隔膜の孔との関係について説明できる。 6. 腰神経叢について概説できる 7. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P169～190, 278～283
10月30日 (水) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	固有背筋の観察 脊柱管と脊髄の観察 上肢離断 §26 胸腰筋膜と固有背筋 §27 後頭下の筋 §28 脊髄(脊柱管開放)	1. 固有背筋・後頭下の筋の立体的配置について概説できる。 2. 脊柱管とその中の脊髄の位置的関係について概説できる。 3. 脊髄神経節の位置を理解しながら、適切に脊柱管を開放できる。 4. 第一頸椎、第二頸椎とそれにつく筋肉について説明できる。 5. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P82～90, 278～283

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
11月1日(金) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	脊髄取出と腰切断 \$28 脊髄 \$52 横隔膜と腰神経叢	1. 脊髄、脊髄神経節と椎骨の関係について概説できる。 2. 腰神経叢、大腰筋の位置的関係について概説できる。 3. 椎骨と椎間円板の構造を理解し、適切に腰椎を離断できる。 4. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P90～91, 189～190, 278～283
11月5日(火) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	咽頭・喉頭の観察 頭部離断 \$74 咽頭 \$75 甲状腺と気管 \$76 喉頭	1. 頸部から胸部に連なる構造について概説できる。 2. 脊髄神経と脳神経の頸部での走行について概説できる。 3. 上記の構造を理解し、適切に頭部を離断できる。 4. 咽頭後壁の構造を後方から理解できる。 5. 咽頭、喉頭の構造、口峽部の構造、後方から見た口腔の構造を概説できる。 6. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P272～296, 278～283
11月6日(水) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	骨盤内臓の観察 外陰部の観察 \$64 膀胱とその周辺 \$65m 男性の外陰部と精巣 \$65f 女性の外陰 \$66m 男性の会陰 \$66f 女性の会陰	1. 骨盤内臓の位置的関係について概説できる。 2. 尿生殖三角、肛門三角の概念を理解できる。 3. 会陰部の筋の配置について概説できる。 4. 精巣・陰茎の構造について概説できる。 5. 大陰唇、外尿道口、膣などを識別し、立体的構造を把握できる。 6. 表情筋の走行を理解し、剖出できる。 解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P229～243, 254～260, 278～283
11月8日(金) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授 佐藤洋一全学教育推進機構長 人見次郎教授 燕 軍准教授 木村英二准教授 村嶋亜紀助教 三上貴浩助教	半切した骨盤の観察 股関節の観察 頭蓋骨半切 \$67 骨盤の切半 \$68m 男性の骨盤内臓の位置 \$68f 女性の骨盤内臓の位置 \$69 骨盤の血管と神経 \$70m 男性の骨盤内臓 \$70f 女性の骨盤内臓 \$71 骨盤壁の筋と股関節 \$79 頭蓋骨切半	1. 骨盤内臓の位置・恥骨結合を確認し、骨盤と仙骨を適切に切半できる。 2. 男性・女性の骨盤内臓の断面からその構造を概説できる。 3. 骨盤内臓と動静脈の関係を概説できる。 4. ダグラス窩について説明できる。 5. 股関節の構造を概説できる。 6. 頭蓋骨・内頭蓋底・咽頭・口腔の構造を理解し、頭部を半切する際に切断する器官・組織を概説できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P244～254, 260～271, 278～283

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
11月26日 (火) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授	表情筋と顔面神経の観察 脳の外形の観察 §73 顔の浅層 §79 頭の切半と口腔 §92 脳の概観 §78 脳硬膜 §93 クモ膜、脳軟膜 §94 脳の血管 §95 脳神経の根	1. 表情筋の配置と顔面神経の走行を概説できる。 2. 顔面神経の走行と耳下腺の関係を説明できる。 3. 耳介側頭神経の走行を説明できる。 4. 口腔・舌（舌筋）の正中断面から見た構造を説明できる。 5. 脳の外景から各脳を特定し、構造的特徴を説明できる。 6. 脳底の血管・脳表面を走行する血管を同定できる。 7. 脳神経の根から脳神経を特定できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P244～254, 260～271, 278～283
11月27日 (水) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授	正中断した脳の観察 舌周辺の観察 §101 大脳の切半と第三脳室 §102 大脳皮質 §104 大脳の連合線維とレンズ核 §105 側脳室と尾状核 §79 頭の切半と口腔 翼突下顎隙	1. 大脳・小脳・間脳～脳幹を半切する際に切断される構造を説明できる。 2. 脳室について説明できる。 3. 舌背（～舌扁桃）、舌下面の構造を説明できる。 4. 舌下動脈の走行について説明できる。 5. 翼突下顎隙に見られる脈管・神経について説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P364～385, 302～305
11月29日 (金) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授	鼻中隔、口蓋、咽頭、喉頭の観察 脳の構造と脳室の観察 §74 咽頭 §76 咽頭 §80 鼻腔と咽頭鼻部 §83 舌と口蓋 §105 側脳室と尾状核	1. 鼻中隔に沿って走る脈管・神経を説明できる。 2. 硬口蓋と軟口蓋の粘膜下の構造について説明できる。 3. 咽頭・喉頭粘膜下にある筋肉の走行を説明できる。 4. 脳室の水平断、前額断からその形を理解できる。 5. 松果体の位置を説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P283～287, 290～296, 305～309, 315～316

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
12月3日(火) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授	腎臓内部の観察 甲状腺と上皮小体の観察 翼突下顎隙の観察 眼窩・眼球の観察 §50 腎臓と副腎 §75 甲状腺と気管 §81 咀嚼筋と下顎管 §85 眼球を前から見る §86 眼球の内容 §87 眼球など	1. 腎臓内部の構造を説明できる。 2. 甲状腺・上皮小体の位置関係、血管分布を説明できる。 3. 咬筋・側頭筋の起始・停止、機能を説明できる。 4. 顎動脈の走行・翼突筋静脈叢について説明できる。 5. 涙嚢・鼻涙管の立体的構造を説明できる。 6. 眼筋の走行、眼窩上神経、眼動脈の走行を説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P173～179, 287～289, 309～313, 319～329
12月4日(水) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授	口腔・咽頭・喉頭の観察 咀嚼筋の観察 顎動脈の走行の観察 眼球内部構造の観察 §74 咽頭 §76 喉頭 §81 咀嚼筋と下顎管 §87 眼球など	1. 咽頭側から見た口腔の構造を説明できる。 2. 咽頭後壁の構造を説明できる。 3. 頸動脈小体を確認し、その機能を説明できる。 4. 喉頭の構造を説明できる。 5. 内側翼突筋・外側翼突筋の起始・停止、機能を説明できる。 6. 顎動脈の走行・翼突筋静脈叢について説明できる。 7. 眼球の内部構造を説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P283～287, 290～296, 309～313, 319～329
12月6日(金) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授	外頸動脈とその枝の走行の観察 顎関節の観察 顎動脈の走行の観察2 脳内部の観察 §72 くびの深層 §81 咀嚼筋と下顎管 §82 顎関節と側頭下窩 §107 大脳と間脳の断面	1. 外頸動脈の枝とその分岐の順番について説明できる。 2. 顎関節の構成に関わる骨、関係する筋肉、靭帯について説明できる。 3. 顎関節の関節円板、関節包について説明できる。 4. 顎動脈の走行と分岐する枝について説明できる。 5. 大脳の水平断面、前額断面から大脳核の位置や脳室などの概形を説明できる。 解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P272～278, 309～315, 383～385
12月10日(火) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授	舌下神経の経路の観察 経緯静脈孔からでる神経の経路の観察 顎動脈の走行の観察3 翼口蓋窩の観察 §84 副鼻腔と翼口蓋神経節 §88 舌下神経管と頸静脈孔	1. 舌下神経の経路（外頭蓋底から頸部へ）の走行経路について説明できる。 2. 頸静脈孔を通る舌咽神経、迷走神経、副神経の経路について説明できる。 3. 顎動脈の翼口蓋窩での走行経路について説明できる。 4. 翼口蓋窩の位置について説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P317～318, 329～330

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
12月11日 (水) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授	外耳～中耳の観察 鼓索神経の経路の観察 §89 外耳と中耳	1. 外耳から中耳を構成する軟骨・骨について説明できる。 2. 鼓膜、耳小骨の位置関係について説明できる。 3. 鼓索神経の走行経路について説明できる。 4. 乳突蜂巣について説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P330～335
12月13日 (金) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授	下顎骨に付く筋肉・靭帯の観察 顔面神経（特に鼓索神経）の経路の観察 §81 咀嚼筋と下顎管 §89 外耳と中耳 §90 内耳	1. 下顎骨に付く筋肉・靭帯について説明できる。 2. 下顎管を通過する下顎神経と枝の走行について説明できる。 3. 顔面神経管の走行と顔面神経の分岐の関係について説明できる。 4. 錐体鼓室裂と鼓索神経の関係について説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P309～313, 330～338
12月17日 (火) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授	翼口蓋神経節・耳神経節とそこから出る神経の経路の観察 口蓋に分布する神経の観察 §84 副鼻腔と翼口蓋神経節 §91 翼突管と頸動脈管と耳神経節	1. 翼口蓋神経節から出る大口蓋神経の走行について説明できる。 2. 口蓋に分布する神経について説明できる。 3. 耳神経節と関連する神経の走行について説明できる。 4. 耳介側頭神経と中硬膜動脈の走行経路について説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P317～318, 338～341
12月18日 (水) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授	上顎神経（眼窩下神経・上歯神経叢など）の観察 §84 副鼻腔と翼口蓋神経節 §87 眼球など	1. 上顎神経の枝、前上歯槽枝、中上歯槽枝、後上歯槽枝の走行について説明できる。 2. 眼窩下神経、動脈の走行について説明できる。 3. 眼窩下溝、眼窩下管、眼窩下孔の立体的位置関係について説明できる。 4. 上歯神経叢について説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P317～318, 325～329
12月20日 (金) 3、4限	藤原尚樹准教授 藤村朗教授	下顎神経（下歯槽神経・オトガイ神経）の観察 納棺 §81 咀嚼筋と下顎管 §82 顎関節と側頭下窩	1. 下顎孔から下顎骨に入る下歯槽神経・動脈・静脈の走行について説明できる。 2. 下歯槽神経の走行から下顎孔伝達麻酔時に必要な注意事項を列挙できる。 3. オトガイ神経と下歯槽神経の連続性、各神経の分布領域について説明できる。 4. 下歯槽神経の枝が各歯に到達する経路について説明できる。 5. 下神経叢について説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P309～315

教科書・参考書（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書名	著者氏名	発行所	発行年
教	口腔解剖学 第2版	井出吉信ほか編	医歯薬出版	2018年
教	口腔顎顔面解剖ノート	藤村朗ほか編、井出吉信 監修	学建書院	2014年
教	ヴォルフ カラー 人体解剖学図譜	Petra Köpf -Mayer、井上貴央 編	西村書店	2011年
教	解剖実習の手びき 第11版	寺田春水、藤田恒夫	南山堂	2004年
教	図説 歯の解剖学 2版	高橋和人ほか著	医歯薬出版	1998年
参	分担 解剖学 改訂11版 全3巻	森於菟ほか著	金原出版	1982年
参	図説 口腔解剖学1~5巻 第3版	上條雍彦 著	アナトーム社	2006年
参	日本人体解剖学 19版 全2巻	金子丑之助 原著	南山堂	2000年
参	Gray's Anatomy for Students 3rd ed	Richard Drake, A. Wayne Vogl ほか著	Churchill Livingstone / Elsevier	2015年
参	マーティン カラー 神経解剖学 第4版	ジョン・H・マーティン	西村書店	2015年

成績評価方法

講義と実習を総合して合計が65点以上を合格とする。
内訳：到達度試験（骨学・筋学・神経学：30%）、前期試験（30%）、後期試験・実習試験（30%）、講義・実習における各節ごとに課すスケッチ・小テスト・ポートフォリオ・提出物等（10%）とする。

特記事項・その他

各講義において学習した内容は、次回以降の講義の基盤となる。すなわち、各講義はすべて積み重ねの講義体系を取っているため、講義ごとにその内容をしっかり理解しておく必要がある。それには教科書や参考資料において人体の諸器官の構造や機能との関連についての記載を読み、理解できない内容についてリストアップしておくなど事前学習が重要であり、そのことが、講義内容の整理を助ける。また、各単元の終了時に、到達度試験を設定しており、それまでの単元の振り返りをするための動議づけになっている。各単元において、事前学習すべき教科書のページを指示するので、それを参考に事前学習を行うこと。

アクティブラーニング：

講義においては定期的に演習課題を提示し、学生同士で教えあう時間を設け、全体及び個々の学生の理解を深める。

臨床解剖学実習は座学で学んだ内容を総合的に理解した上で実施することが必要で、実習を行うにあたり提示している事前学習を行い、学生同士で割出した組織や器官の形態や特徴について議論しながら実習すること自体がアクティブラーニングである。また、実習内に提示する課題を実施することでよりいっそう、解剖学的知識の定着、理解度を深める。

WebClassにおいて、アクティブラーニングの課題や、その他の情報提示、フィードバックを行うので、使用法を確認しておくこと。

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的	
デジタルマイクロスコープ一式	DS-3UX	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料提示用
顕微鏡用デジタルカメラ一式	DS-5Mc-U2 他	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料作成と提示用
パソコン	MA970J/A ZOEM	1	基礎実習・研究用機器	講義の視覚素材資料作成
デジタル一眼レフカメラ一式	D700	1	基礎実習・研究用機器	解剖実習遺体の破格症例の画像記録
パソコン一式	XPS730	1	基礎実習・研究用機器	解剖実習遺体の破格症例のデータ保存及び画像処理 切片からの3D再構築・画像作成
ハードディスク	HDL-GTR3.0	1	基礎実習・研究用機器	解剖実習の画像データ一括保存
A3スキャナ	ES-10000G	1	基礎実習・研究用機器	大型切片画像データの入力
冷蔵庫	SR361T	1	基礎実習・研究用機器	実験・実習試料及び試薬の保存
ノートパソコン一式	CFS9LYFEDR	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料提示用
デジタルマイクロスコープ	VHX-1000/10 20	1	基礎実習・研究用機器	実験・実習資料のデジタルデータ採取・保存。講義での供覧
画像連結システム一式		1	基礎実習・研究用機器	大割切片の撮影、タイリング像の作成
デスクトップパソコン一式	B4F75PA_ABJ	1	基礎実習・研究用機器	大容量画像の処理、立体再構築像作成
3次元カラー造形機 Z Printer450 一式		1	基礎実習・研究用機器	CT 3D 画像の実体化による講義のため
バイオメディカルフリーザー	MDF-U539	1	基礎実習・研究用機器	実験、実習資料および試薬の保存、その取扱い実習の実習
ノートパソコン ProBook Notebook PC	450 G2	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成
デスクトップパソコン Workstation 一式	Z840	1	基礎実習・研究用機器 視聴覚用(学部授業他)機器	授業のデモ及び研究データ解析用
分析天秤 ATX84 型	321-71000-02	1	基礎実習・研究用機器	臨床解剖実習で使用する試薬作成・研究用試薬作成
カラーコピー機 image RUNNER ADVANCE	C3530F II	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成
TeraStation TS3410DN 4TB	TS3410DN0404	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成
無停電電源装置	BN75T	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成
MS シュレッター	MSR-25CM	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成
ノートパソコン	New XPS15	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成